

第 15 回心臓リハビリテーション学会学術集会ご報告

会長 伊東春樹

第 15 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会

共催：(財) 日本心臓血圧研究振興会 後援：(社) 東京都医師会

今回、日本心臓リハビリテーション学会設立 15 周年、また心臓リハビリテーション指導士認定制度発足 10 周年という節目に、学術集会の会長を仰せつかったことは大きな喜びでした。当学会は会員が年々増加し、現在約 6,000 名に迫る勢いです。その背景には、循環器医療のなかで治療としての運動療法が確立し、虚血性心疾患に対する血行再建術の弱点を補完するとともに、高齢化社会に伴って確実に増加している慢性心不全に対する効果が認められてきたことがあります。同時に、2006 年の診療報酬改定で、心臓術後や大血管疾患、心不全にも保険適応が認められたことも追い風となり、心臓リハビリテーション指導士の活躍の場が広がっていることも一因と思われます。しかし、循環器医療は未だ急性期に重点が置かれ、多くの病院で心リハは実施されていないことも事実です。

これらの状況をふまえ、今回の学会で目指したことは、①ややもすれば実践医療の側面ばかりが取り上げられやすい心リハの効果の基礎医学的裏付けを明確にすること、そのために一流の研究者を国内から約 60 名、海外から 20 名以上招聘し、Karlman Wasserman 先生の特別講演を始め 40 以上の講演を依頼しました、②心リハは「多要素包括的」医療であることをふまえ、日本リハビリテーション医学会、日本循環器看護学会、日本心理臨床学会、日本理学療法士協会、その他関係諸学会や研究会、団体との共催セッションを 15 セッション企画、さらに③一般市民に心リハを身近なものとして感じ、また循環器疾患の一次予防の重要性を理解していただくための企画を立てました。すなわち学会 2 日目は一般酸加賀田のオープンな学術集会とし、朝の心リハ指導士と歩くウォーキングから始まり、公開市民講座、中医協会長や行政関係者、患者さんを含めた医療の仕組みを知ってもらい、心リハ普及の方策を模索する公開パネルディスカッション、心リハ経験のある専門家による落語（三遊亭歌笑氏）、著名人による再発予防と一次予防に関する討論会（藤巻幸夫氏、森田健作氏、濱中博久氏）、各地のメディックスクラブによる維持期心リハの紹介(NPO 法人ジャパンハートクラブ)、救急蘇生と AED 講習会など、多くの一般参加のセッションを開催しました。加えて展示会場においても運動指導コーナー、血圧・血糖・酸化ストレス・血管年齢・体のゆがみ測定コーナーを始め、禁煙推進コーナーなど一般市民参加型の学会を目指しました。

今回、当学会では経験のない多くの企画を実施し、昨年より受験資格の関係で心リハ指導士試験受験者が 400 名ほど減ったにもかかわらず、有料参加者数は約 2,469 名、無料セッション参加者 105 名、国内招聘講師 63 名、海外招聘講師 21 名、招待者 42 名、サテライトプラクティカム参加者 74 名、ボランティア 109 名、これに関係団体・企業関係者を含

めると、3000名を優に超える参加者が集まり成功裏に終了したことは、私どもの意図するところに共感をいただけたものと喜んであります。想定した数の二倍近い参加者が参集したため、どこの会場も人であふれ、会長講演でさえ1000名のホールに立ち見が出るほど盛況でした。一方で関連学会や心リハに接点の少なかった循環器医、行政担当者などを多くを招聘、学術集会に参加していただき、心リハの何たるかを理解していただくこと、さらにアジア・ヨーロッパ・米国などの海外の心リハ関係者に、日本の心リハの優秀性を知っていただくことも目論んだプログラムでしたが、それらについても十分目的を達したと自負しております。

例年の2倍に相当する講演数や、初めての試みである実習型の教育セッションなど、これらは関係者の多大な協力なしには実行できなかったことを付し、関係者や参加者に感謝しつつ学術集会報告といたします。